

【平成29年度「海の日」関連新プロジェクト！】

シ-トウ-シ-  
「C to Seaプロジェクト」を始動します！

国土交通省海事局は、子どもや若者をはじめ、より多くの人に海や船の楽しさを知ってもらうため、「C to Seaプロジェクト\*」として、海との接点を広げる新たな取り組みを開始します。

海の世界は、海運や造船など、B to B (business to business、企業間の取引)が中心であり、多くの人にとって知る機会の少ない分野です。ですが本来、海は、四面を海に囲まれた日本に住む私達にとって身近な存在であるはずで

す。これまで海に関わる人々が「海の日」の行事をはじめ様々な活動を行ってきましたが、今後はより多くの皆さんと一体となり、特に若い世代を中心に海に触れる機会を増やしていきたいと考えます。

このため、海を応援する皆さんとともに、「海に行く」「船に乗る」「海を知る」につながる、様々な新しいアクションを実際に起こすことで、子どもや若者をはじめとする多くの人にとって、海や船がさらに「楽しく身近な存在」になるような世の中を目指し、本年の「海の日」を機に、「海と日本プロジェクト(注)」の一環として、「C to Seaプロジェクト」を始動します！

Coming soon!

プロジェクト始動にあたり「海の月間」中の7月下旬に**船上**で  
**キックオフ会合を開催予定!** ※詳細は7月中旬に別途発表予定



※「C to Sea」の名称に込めた思い

- ・「広く一般に」：消費者 (Consumer)、国民 (Citizen)、子供達 (Children)
- ・「日々の生活に浸透」：文化 (Culture)、文明 (Civilization)
- ・「輪を広げる」：つながる (Connect)、協力する (Cooperate)、創り出す (Create)
- ・「海を身近に」 (to Sea)

(注)「海と日本プロジェクト」：次世代を担う子供たちを中心に、多くの人の海への好奇心を喚起することを目指し、国土交通省や日本財団等が主導する産学官民共同のオールジャパンプロジェクト。平成27年の夏に開始。

**当面の具体的な取組み** (参考：別添資料)

- 気軽に乗れる「**和製のクルーズ**」で海の楽しさを広げるプロジェクト：
  - ・和製のショート&カジュアルクルーズ事業の促進策を検討 (平成29年度)
- 「**セイルキャンプ日本丸・海王丸**」で海を楽しむプロジェクト：
  - ・中学生を対象とした(独)海技教育機構練習帆船「日本丸」による神戸～東京間の体験航海 (本年の海の日行事に合わせ、平成29年7月15日～17日に実施予定)
- マリンチェック街道と「**海の駅**」プロジェクト：
  - ・海の駅 (こうべたるみ海の駅) 等でマリンレジャーを体験できる「マリンカーニバル」を神戸で開催 (西日本では初。平成29年7月)
- 「海はいいな!」**ビッグウェーブ**プロジェクト：
  - ・イベント等の海情報を一元的・継続的に広く発信する SNS 等を試行 (平成29年度中開始)
- 今後、引き続きアイデア募集

## 【問い合わせ先】

海事局総務課企画室 木村、太郎田 (内線 44-422、43-172)

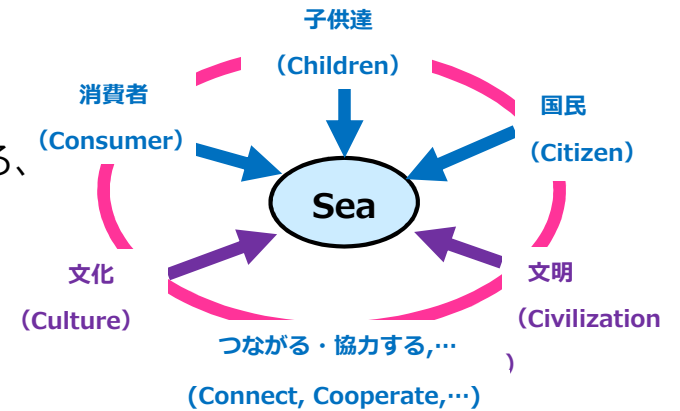
電話：03-5253-8111(代表)、03-5253-8605 (直通)、FAX：03-5253-1642

「海と日本プロジェクト」



## C to Sea プロジェクト

【名称の意味】



- “B to B” (business to business、企業間の取引)が中心で  
普段触れる 機会の少ない「海」の世界を “C to Sea”に変えていく。
- 海を応援する幅広い関係者とともに、海に触れる機会の増加につながる、  
様々な新しいアクションを実際に起こすプロジェクトを展開。
- 各個別プロジェクトを磨き上げ、進捗状況や成果について、**継続的に  
対外発信**
- 全国から幅広くアイデアを募集。

### 当面のプロジェクト

気軽に乗れる「和製のクルーズ」で  
船の楽しさを広げるチーム

和製のショート&カジュアルクルーズ  
事業の創出を促進し、全国的な船旅市場  
活性化につながるビジネスモデルを  
構築。



「セイルキャンプ日本丸・海王丸」で  
海を楽しむ企画チーム

海技教育機構の練習帆船等を一層活用  
すべく、小中学生の海洋教育プログラム  
との連携やイベント時の宿泊付き海  
洋体験等を推進。



マリンチック街道と「海の駅」  
プロジェクトチーム

【海の駅ロゴ】



地方自治体・観光関係者等と連携した  
海の駅の新たな活用策やプレジャーボ  
ート等の時代に即した保有・利用形態、  
体験学習の機会拡大等を推進。

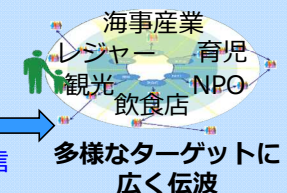


「海はいいな！」  
ビッグウェーブチーム

SNS等を通じ、イベント等の全国の楽し  
い海情報を一元的・継続的に広く発信す  
る体制を構築。  
各種イベント  
(造船所見学等)



一元的に発信



シー・トゥー・シー  
「C to Sea プロジェクト」について

**プロジェクトの趣旨**

私たち日本人は、古来より、海から食の恵みを受け、海を行き来し、海で遊び、海に癒され、海から多大な恩恵を受けてきました。今後もこのような恩恵を私たちが受け続けるためには、海への理解や感謝の気持ちを、特にこれからの日本を背負う若い世代に確実に引き継ぐとともに、海に関わる仕事を担い支える人材の確保も不可欠です。

しかしながら、海事関係のこれまでの取組みは、海運、造船をはじめ、B to B (B=Business (企業間の取引)) が中心であり、多くの人にとっては普段親しむ機会が少ない「海」や「海事の世界」へ人々をいざなうことに、それほど重点が置かれていませんでした。

このため、これまでの取組みから一歩踏み出す新たなプロジェクトを展開します。

本プロジェクトの推進にあたっては、海事関係者のみならず、地方自治体や異業種等幅広い関係者との連携を深めるとともに、今後、様々な場を捉え、本プロジェクトの進捗状況や成果を発信して参ります。

**【プロジェクト名称趣旨】**

「C to Sea (シー・トゥー・シー) プロジェクト」

この名称には次のような意味を込めています。

- 「広く一般に」：消費者 (Consumer)、国民 (Citizen)、子供達 (Children)
- 「日々の生活に浸透」：文化 (Culture)、文明 (Civilization)
- 「輪を広げる」：つながる (Connect)、協力する (Cooperate)、創り出す (Create)
- 「海を身近に」 (to Sea)

また、このプロジェクトの全体を通し、海洋教育推進の一翼を担うとともに、「海の日」を中心とした取組み（「海と日本プロジェクト」等）の推進に寄与するよう、進めます。

**プロジェクトの取組み内容**

**(1) 具体的な取組み**

**a. 気軽に乗れる「和製のクルーズ」で船の楽しさを広げるプロジェクト**

→四面を海に囲まれたこの日本の、資源や産業を活かして造られ、走る、「和製のクルーズ」を、世の中に送り出す取組みを応援します！。より多くの人に船の楽しさを知ってもらい、全国的な船旅市場の活性化、日本ならではの船旅文化の浸透を目指します。

<取組例>・誰もが気軽に楽しめるショート&カジュアルクルーズ等、和製のクルーズ事業の新規立ち上げを促進する仕組みの検討（船舶という高コスト商品に特有の投資リスクを分散・軽減する方策、幅広い分野からのノウハウの取り込み方策の検討等（例：企業連合による事業化モデルの構築、船舶シェアリングの検討等））

・特定のエリア（瀬戸内海地域）におけるモデル事業の実施 等

#### b. 「セイルキャンプ日本丸・海王丸」で海を楽しむプロジェクト

→これまで専ら船員養成のために活用していた（独）海技教育機構が保有する練習帆船を、子供たちをはじめ、多くの人々に海に親しんでもらう取組の中核的存在として、多目的に活用していきます！。

- ＜取組例＞
- ・小中学校の海洋教育プログラムでの一層の活用
  - ・海事関連イベント時における宿泊付き海洋体験としての活用 等

#### c. マリンチック街道と「海の駅」プロジェクト

→プレジャーボートやヨットの寄港地として、いつでも、誰でも、気軽に利用できる拠点として認定している「海の駅」について、海側からのアクセスだけでなく、陸側の観光ルートに組み込むことで新たな賑わいを創るなど、地方自治体等との連携を図り、さらなる活性化を目指します！。

- ＜取組例＞
- ・「海の駅」の認定数及び知名度の向上方策の検討
  - ・地方自治体ほか地元の観光関係者、水産関係者とのタイアップによる新たな観光メニュー、ルート作りや、モデル事業の実施
  - ・プレジャーボート等のシェアリング、オンデマンドチャーター等、新たな保有・利用形態を取り入れたマリンレジャー普及策の検討
  - ・ボート・ヨット等の普及促進のための体験学習の機会拡大 等

#### d. 「海はいいな！」ビッグウェーブプロジェクト

→SNS等を通じて、海の魅力を皆さんに広く発信する体制をつくり、全国の楽しい海情報をまとめてどんどん発信します！。「海」の魅力を知る人たちをこれまでの枠組みを超えてつなげ、大きな波を生み出します。

- ＜取組例＞
- ・イベント等の海情報を一元的・継続的に広く発信する体制の構築 等

#### e. その他

→今後、皆様からのアイデアも得て、随時追加（以下（2）参照）。

### (2) 全国からのアイデア募集

→上記（1）の各種取組みの進捗を踏まえながら、今後、本プロジェクトの趣旨に合致する取組みについて、海運業界のみならず、地方自治体、観光DMO、異業種企業、企業連合、NPO等をはじめ、全国からアイデアを募集し、プロジェクトの輪を広げていきます。